

「辺野古に基地を絶対つくらせない大阪行動」便り



1月6日土曜日、辺野古に基地を絶対に作らせない大阪行動が700回目を迎えました。

名護市長選挙2月4日投開票。辺野古新基地にNO！をつきつける現職・稲嶺進市長の再選を。



【写真右】
三浦俊一さん（釜ヶ崎日雇労働者組合）のスピーチの一部の要旨です。

空から降ってくるものは雨や雪。沖縄の空からは軍用機が、ヘリコプターが、その部品が、オスプレイが降ってくる。落ちてくる。沖縄の道路を見れば、米軍の軍用車両が猛スピードで走り去る。酔っぱらった米兵の運転する

る車が疾走する。

辺野古で未来を作る。辺野古で勝てば戦争への道をとめられる。未来の子どもたちのために、基地の無い沖縄を現実のものにする。沖縄だけの、沖縄の人々だけの問題ではない。平和への希求を込めた辺野古座り込み行動であり、基地撤去の闘い。沖縄の人々は本土の人々に共に闘おうと手を伸ばし続けている。本土はまだ見捨てるのか。

軍事費は過去最大の五兆二千億円。専守防衛を捨て、航空自衛隊の戦闘機に搭載する長距

離巡航ミサイルの配備を決め、社会保障費は削られていく。

アベの言う働き方改革はもっと働けということ。高齢化の何が問題なのか。年をとることがそんなに嫌悪されることなのか。介護は切り捨てられ、年寄りには早く死ねと言わんばかり。高齢化社会の問題は政府の問題だ。憲法を壊さない第一は戦争の無い沖縄を実現させること。基地を止める。辺野古で止める。



【編集委員 辻真弓】

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！